

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	10
(会計方針の変更) .....	10
(追加情報) .....	10
(セグメント情報) .....	11
3. 補足情報 .....	12
(1) 決算概要 .....	12
(2) 連結子会社数・持分法適用会社数 .....	12
(3) 1株当たり四半期(当期)純利益 .....	12
(4) 平均為替レート(円) .....	12
(5) 部門別売上高 .....	12
(6) 部門別営業利益 .....	12
(7) 海外売上高 .....	12
(8) 研究開発費 .....	13
(9) 設備投資額 .....	13
(10) 減価償却費、支払リース料 .....	13
(11) 期末従業員数(定期社員除く) .....	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

2022年度は、2023年度を最終年度とする中期経営計画「令和・Prosperity2023」の達成に向けた重要な1年となります。2023年度売上高目標1兆円の達成、営業利益率については、2021年度の8.2%を更に向上させるため、パワエレ事業、パワー半導体事業の拡大を中核とする「成長戦略の推進」、グローバルでのものづくり力強化による「収益力の更なる強化」、および、ESG（環境、人財、ガバナンス）を中心とした「経営基盤の継続的な強化」を推し進めています。

当第3四半期連結累計期間における当社を取り巻く市場環境は、脱炭素化に向けた世界各国の取り組みやデジタル化の加速を背景に、自動車の電動化、省エネ、デジタルインフラ等のニーズが高まり、製造業やデータセンター等の設備投資が継続的に行われました。その一方で、中国においては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響等により、設備投資は低調に推移しました。また、円安の急激な加速を背景としたエネルギー価格の上昇や素材価格の高騰の他、資材不足等、世界のサプライチェーンにおいて、先行きが不透明な状況が継続しました。

このような環境のもと、当社は、旺盛な需要に対応したパワー半導体生産能力増強に加え、部材調達難に対する設計変更による代替部材対応や複数サプライヤー化等のサプライチェーン最適化の取り組みを継続して実施しました。

当第3四半期連結累計期間の連結業績の売上高は、部品供給不足による生産制約の影響が一部の部門にみられたものの、全ての部門が増加し、前年同期に比べ708億円増加（11%増加）の6,908億円となりました。

損益面では、素材価格高騰や動力費の影響を受けたものの、物量の増加に加え、製品販売価格の値上げや原価低減の推進、為替影響等により、営業損益は前年同期に比べ98億円増加の424億円となりました。経常損益は前年同期に比べ71億円増加の413億円、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期に比べ36億円増加の290億円となり、売上高、営業損益、経常損益、親会社株主に帰属する四半期純損益いずれも、過去最高を更新しました。

当第3四半期連結累計期間の連結経営成績は次のとおりです。

(単位：億円)

	2022年3月期 第3四半期連結累計期間	2023年3月期 第3四半期連結累計期間	増減
売上高	6,200	6,908	708
営業損益	327	424	98
経常損益	341	413	71
親会社株主に帰属する 四半期純損益	254	290	36

## 部門別の状況

## 《パワエレ エネルギー》

売上高：1,802億円（前年同期比 16%増加） 営業損益：153億円（前年同期比 60億円増加）

施設・電源システム分野及び器具分野の需要拡大を主因に、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

- ・エネルギーマネジメント分野は、前年同期の産業向け変電機器の大口案件影響等により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
- ・施設・電源システム分野は、国内外のデータセンター及び半導体メーカー向け案件の需要が大幅に拡大し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・器具分野は、工作機械及び半導体製造装置等の国内を中心としたセットメーカーの需要が拡大し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

## 《パワエレ インダストリー》

売上高：2,331億円（前年同期比 6%増加） 営業損益：38億円（前年同期比 25億円減少）

為替影響やITソリューション分野の需要増加により、売上高は前年同期を上回りましたが、営業損益は、素材価格の高騰や部材調達難による生産減等の影響により、前年同期を下回りました。

- ・オートメーション分野は、中国において新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、為替影響等により、売上高は前年同期を上回りました。一方、営業損益は低圧インバータやFAコンポーネントを中心とした、部材調達難による生産影響や素材価格の高騰等により、前年同期を下回りました。
- ・社会ソリューション分野は、船舶向け及び鉄道車両向けの案件が減少し、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
- ・設備工事分野は、電気設備工事の需要が増加し、売上高は前年同期を上回りました。一方、営業損益は資材及び機材価格の高騰等により、前年同期を下回りました。
- ・ITソリューション分野は、文教及び民需分野の大口案件等の需要増により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

## 《半導体》

売上高：1,469億円（前年同期比 13%増加） 営業損益：225億円（前年同期比 33億円増加）

- ・半導体分野は、ディスク媒体事業からの撤退影響があったものの、電動車（xEV）向け及び産業分野向けのパワー半導体の需要拡大及び為替影響により、売上高は前年同期を上回りました。また、営業損益も、パワー半導体の生産能力増強に係る費用の増加や素材価格及び動力費の高騰影響があったものの、高操業の維持による生産及び売上の増加により、前年同期を上回りました。

## 《発電プラント》

売上高：557億円（前年同期比 26%増加） 営業損益：2億円（前年同期比 14億円増加）

- ・発電プラント分野は、再生可能エネルギーの大口案件及び案件差等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

## 《食品流通》

売上高：684億円（前年同期比 5%増加） 営業損益：29億円（前年同期比 13億円増加）

- ・自販機分野は、中国の子会社における貸倒引当金計上による損益悪化影響があったものの、国内の需要拡大に加え、原価低減の推進等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・店舗流通分野は、前年同期の金銭機器の大口案件影響により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。

## 《その他》

売上高：432億円（前年同期比 10%増加） 営業損益：25億円（前年同期比 8億円増加）

（注）第1四半期連結会計期間より、組織構造の変更に伴い、「パワエレ エネルギー」及び「パワエレ インダストリー」の各報告セグメントにおいて、集約する事業セグメントを変更しております。  
 なお、前第3四半期連結累計期間の報告セグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

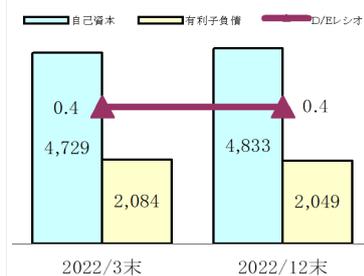
## (2) 財政状態に関する説明

(単位：億円、倍)

	2022/3 末	構成比 (%)	2022/12 末	構成比 (%)	増減
総資産	11,171	100.0	11,492	100.0	+321
有利子負債残高	2,084	18.7	2,049	17.8	△35
自己資本	4,729	42.3	4,833	42.1	+104
D/Eレシオ	0.4		0.4		0.0

\*自己資本=純資産合計-非支配株主持分  
\*D/Eレシオ=有利子負債残高/自己資本

(単位：億円、倍)



当第3四半期末の総資産は11,492億円となり、前期末に比べ321億円増加しました。流動資産は、売掛金が減少した一方、契約資産、棚卸資産の増加などを主因として、165億円増加しました。固定資産は、投資有価証券が、売却及びその他有価証券の時価評価差額相当分の減少を主因として減少した一方、有形固定資産の増加などを主因として、156億円増加しました。

有利子負債残高は、当第3四半期末では2,049億円となり、前期末に比べ35億円の減少となりました。なお、有利子負債残高から現金及び現金同等物を控除したネット有利子負債残高は、当第3四半期末では1,083億円となり、前期末に比べ88億円の減少となりました。

純資産は、利益剰余金の増加を主因として増加し、当第3四半期末では5,352億円となり、前期末に比べ115億円の増加となりました。なお、純資産合計から非支配株主持分を控除した自己資本は前期末に比べ104億円増加し、4,833億円となりました。D/Eレシオ（「有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末と同じ0.4倍となりました。なお、ネットD/Eレシオ（「ネット有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末と同じ0.2倍となっております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期連結累計期間の連結業績動向等を踏まえ、2022年10月27日の決算発表時に公表した2023年3月期通期の連結業績予想は修正しておりません。

第4四半期の為替レートは、135円/US\$、135円/EURO、19.5円/RMBを前提としています。

(2023年3月期通期 連結業績見通し)

(単位：億円)

	前回発表	今回発表	増 減
売上高	9,850	9,850	0
営業損益	870	870	0
経常損益	880	880	0
親会社株主に帰属する 当期純損益	595	595	0

(参考：部門別)

(単位：億円)

	前回発表		今回発表		増 減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
パワエレ エネルギー	2,520	266	2,520	266	0	0
パワエレ インダストリー	3,550	256	3,550	256	0	0
半導体	2,040	313	2,040	313	0	0
発電プラント	820	41	820	41	0	0
食品流通	930	42	930	42	0	0
その他	550	33	550	33	0	0
消去または全社	△560	△81	△560	△81	0	0
合計	9,850	870	9,850	870	0	0